

# 羣書類從

百八十四

庫	文	閣	內
美函架	六六六	八六九〇	和書類

庫	文	閣	內
二五函架	六六六	八六九〇	和書類

內閣文庫	
番號	和 18690
冊數	666(244)
函號	215 3



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM, Kodak





群書類聚卷之八十四

和歌雜詠九次合

永福寺屋后鏡合  
天治三年二月

題

馮 郭 月 雪 楓

法

大竹

...

檢校保己一集

...



群書類從卷第百八十四

檢校保己一集

淺草文庫

和歌部世九歌合云

永祿宗良房歌合 大治三年二月廿日

題

郭公

月

雪

祝

歌人

九

大納言君

三郎君









たがひなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに

二番

右

三郎君

遠逝あるもいふはなほあはれに

右指

并君

山橋あるもいふはなほあはれに  
たがひなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに  
あはれなきもいふはなほあはれに

三番

左指

世宇治山老殿

浮世なるもいふはなほあはれに







横山より感念同守の格をうけて山頂をまわ

右

花林院得業

茶室の如くふりあつて道にまはれはたふらふとては

右の如くふりあつて茶室の如くふりあつては

あつての如くふりあつてはたふらふとては

はたふらふとてはたふらふとては

はたふらふとてはたふらふとては

六番

左勝

香雲房

八重橋より感念同守の格をうけて山頂をまわ

右

慈光坊

宮古より感念同守の格をうけて山頂をまわ

左の如くふりあつて茶室の如くふりあつては

あつての如くふりあつてはたふらふとては

はたふらふとてはたふらふとては

はたふらふとてはたふらふとては

はたふらふとてはたふらふとては

はたふらふとてはたふらふとては

七番

左勝

上総寺



志は信乃生田此川志智成山の橋はちりるに候も

右

式部君

あさりの雷をよこす中を年をへてくねの心はるはる

た歌は志智成川をりるあしり文字あさるは

ゆゆ又あははるれははるれをれかきあは

相格をみりや海ふくまはるをよまはる

いへるはるをよまはるあはるはるはるはる

あ合よおりてよまはるあはるはるはるはる

花を言ふ似たるあはるはるの事よまはるはる

くまはるはるはるはるはるはるはるはるはる

あはるはるはるはるはるはるはるはるはる

一巻 郭々

九

大納言君

あはるはるはるはるはるはるはるはるはる

右 膳

中納言君

郭とあはるはるはるはるはるはるはるはる

た歌は志智成川をりるあしり文字あさるは

ゆゆ又あははるれははるれをれかきあは

相格をみりや海ふくまはるをよまはる

いへるはるをよまはるあはるはるはるはる











わしり思ひのふかたぬあはれ何持やうしん  
た若<sup>作者</sup>さうさうを張らうゆと持も家之

六番

左

香雲扇

挽歌まのふあそやうとくねの原ふ一ち多とく

右端

慈光房

五月小志のあくやとて付多程うう待たぬあはれ  
たすははの原をうひあふと海よりせれとるそ  
らや一と進今起とてんれおとりさるはむもまら  
るぬくしよや右敵の付多の志とあくしよとる

あまをばと糸と糸とくしよとあしとくしよとあ  
らとくしよとあしと糸とくしよとあしとくしよとあ  
くしよとあしと糸とくしよとあしとくしよとあ  
ゆら右とあしとくしよとあしとくしよとあ  
万葉集ふくろ人のかやとんあしとくしよとあ  
七番

右

上徳君

郭と都とあはれとてあしとくしよとあしとくしよとあ

右端

式部君

あしとくしよとあしとくしよとあしとくしよとあしとくしよとあ







二番

左脇

三郎君

秋乃月乃光乃くく絲と藤乃光を糸乃の道

右

弁君

秋乃秋乃のむし人におおやもる月ハ程を留む

た君かよと藤乃糸乃の道と藤乃おとく

あくと糸乃の道乃た君ハおよの字志乃り

又乃の月ハ糸乃んちと記乃んちと藤乃の道

の月乃糸乃ハいうあくとん龍乃の道ハ

また糸乃の道ハ糸乃の道ハ糸乃の道ハ

女日あまの海日たやの月乃や糸乃の道ハ

糸乃の道ハ糸乃の道ハ糸乃の道ハ

三番

左脇

三郎君

いあて秋ハ光乃まらるん日ハ三郎乃の道ハ

右

大輔君

秋乃の道ハ糸乃の道ハ糸乃の道ハ

右脇乃の道ハ糸乃の道ハ糸乃の道ハ

おちめいなる糸乃を糸乃の道ハ糸乃の道ハ

せいとねー右乃の道ハ糸乃の道ハ糸乃の道ハ











秋乃よ長井井に泊りて持るよとてさるの月

大右 孫

武部 君

河を夜乃雲吹く風を月を人のさるありれ

右所長井のに泊りて持るよとてさるの月

と梅のよとてさるの月を人のさるありれ

のよとてさるの月を人のさるありれ

のよとてさるの月を人のさるありれ

のよとてさるの月を人のさるありれ

のよとてさるの月を人のさるありれ

一番 雪

こと 猪

老 院

おれよとてさるの月を人のさるありれ

右

中納言 君

おれよとてさるの月を人のさるありれ

おれよとてさるの月を人のさるありれ

おれよとてさるの月を人のさるありれ

おれよとてさるの月を人のさるありれ

おれよとてさるの月を人のさるありれ

おれよとてさるの月を人のさるありれ

二番



左

三郎君

右殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

右

弁君

白雪にあらぬ道うの道とてをさる斗ふをうと紅ま

左殿の賢陽院若く合うはつと前代若く

古きうのふいふとまうとさるをよふ人の道は

いんまの心もさるをみゆるとれうの道とてをさる

とていづるの道とてをさるをいづるをさる

左殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

三番

左殿

左殿

大納言君

おれいふの道何地方なるぞん志あらむとていづる

右

大納言君

右殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

左殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

右殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

左殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

右殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

左殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心

右殿の志願は此松も花咲きて三編の山もいづる心







う代さしそ知る言と介様よをほさるる者此山

右

花林院

年をへて伏見の山に降るるにたはしむもあきまうぬ

たふらちとくしんをひぬふししとくくやな又と

急のちる者さふふあつらえん白ののちるも決まハ

いとゆちりふあきとけはたつとつあふちるる

されらむとさるるや右に伏見の山うらるる

里の社清くあふしとくくくくくくくくくくく

あふしとくくくくくくくくくくくくくくくく

六番

ふあふしとく

左

香雲房

降るに山の初より降りてまはしむる人々色も

右

慈光房

河原の山に此山原に雲ふとあふしとくくくく

たふらちとくしんをひぬふししとくくやな又と

おふらちとくしんをひぬふししとくくやな又と

いふらちとくしんをひぬふししとくくやな又と

おふらちとくしんをひぬふししとくくやな又と

ふらちとくしんをひぬふししとくくやな又と

七番



左後

上総君

山崎氏よりいさむき葛城やぐらに名將とてを知らむ

右

式部君

巻向のあやし梅原の権進といふあまのりしあまのりし

左あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

一番 祝

左

左 志願

みよのりしあまのりしあまのりしあまのりし

右 格

中納言君

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

あまのりしあまのりしあまのりしあまのりし











いづれ代をまじりしおのれ原千代のうらみ  
左代もにゆりゆり糸と指難くも人の持を  
やまらむとていひ

六番

九猪

香雲房

うきさの火はのぼりてを此おもてまぬ君は代  
右

右

慈光房

春日山をのぼりて新美代を君かといひ  
左代もにゆりゆり糸と指難くも人の持を  
やまらむとていひ

院前のおちよめも新といひ  
おふふのおあやんや管えんり身おかい  
まらにをさるるけとくもねとらや

七番

左代

上総君

春日山をのぼりて新美代を君かといひ

右

式部君

君は代はいつともあやうか  
さま白におもていひ  
あひの夢をさるるけとくもねとらや



あまけあるいふもやうにさうさうとておきて  
久しよやうのうもさうにほそく

此道被催宿習雖似好於若惡事者全所不知  
給也偏依難有作旨不顧嘲哂所令判申也莫  
不速他見者幸甚々々努々

源俊賴朝信

西宮歌合

大治三年八月廿九日於廣田社頭議々  
祇伯取伴卿一家人々相共所會也

判者 前左衛門佐基俊

一番 月 寄述懐

左 前美作守取猶朝信

難波江のあまにやいふ月さうに我身知と川も沈まらぬ

右 祇伯取伴卿

川も沈まらぬ月よそと沈て沈むくさうさうとておきて

左右に述もさうさうに竹井もさうさうにさうさう

月よそ我身知と川も志川まさうさうとておきて

さうさう姨捨さうさう月さうさう人共心もさうさう